

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	サービ斯拉ーニング B(子ども食堂からみる孤食と貧困問題)			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	関西国際大学		
	活動 グループ名	SL-B(子ども食堂)	参加学生 等人数	21人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	教育学部教育福祉学科		
	責任者氏名	上原 昭三	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	NPO 法人 スマイルひろば		
	代表者氏名	理事長 中井澄江	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	本授業では、以下の学習目標を設定します。 ① わが国における子どもの社会的な問題を説明することができる。 ② 子ども食堂の実態について説明することができる。 ③ 子どもの社会的な問題と子ども食堂との関連について説明することができる。 ④ 子ども食堂の抱える問題点に対する改善案を提案することができる。 ⑤ コロナ禍で子どもが抱える問題について考え、自分たちにできることを提案する。			
活動内容及び 実績、評価	別紙に記載			

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。

<別紙:活動内容及び実績>

尼崎市内の民間団体が実施している3か所の子どもの学習支援や子ども食堂に参画した。

本年度は、コロナ禍のため「食堂」の実施が見送られる中、弁当配送や子供の居場所づくりの業務に参加することになった。参加時間も例年に比べて短くなったが、そこに来る子どもと関わりをとおして、子ども・家庭の問題とその背景や団体の理念や思想を考えるとともに、大学生として貢献できることを提案した。活動詳細は以下のとおりである。

第1回 オリエンテーション(授業の概要)

第2回 ・学校現場で生じている子どもの問題①(いじめ)

第3回 ・学校現場で生じている子どもの問題②(不登校)

第4回 ・地域社会で生じている子どもの問題③(貧困、ひとり親)

第5回 ・地域社会で生じている子どもの問題④(非行)

第6回 ・子どもの居場所支援に関する学習

第7回 ・活動先とのマッチング(各団体からの説明→学生との懇談)

第8回 ・活動目標の設定(具体的な活動目標設定、活動先選択、活動計画作成など)

・現地活動①

・現地活動②

・現地活動③

・現地活動④

10月～12月

各自2日程度子ども食堂や学習支援の活動に参加する。

事前学習

4月～5月実施

教員による講座とグループでの討論

・事後学習:振り返りとポスターの作製(12月～1月 各自)

[受け入れ先]

① NPO 法人スマイルひろば

② 戸ノ内社会福祉連絡協議会 いこいこ庵

③ ポノポノプレイス

(評価)

事前学習では、学校現場や地域社会で生じている子ども問題について、教員による講義や自主学習によって、初歩的な理解を得たと考えられる。

本年度は、コロナ感染症の拡大で活動が制限されたため、参加回数が少なく(2回程度、1回しか参加できなかった学生もあった)なりこれまで比べて現場での経験を深めることが例年に比べて不十分であったと思われる。ただ実際に子供たちと関わったり、スタッフの方々と交流したりする中で、地域における子ども食堂の目的や意義、設立の背景、子どもたちの実態と彼らがおかれている環境等について体験的に「考える」機会を持つことが彼らの振り返り等から見出すことができる。

受け入れ先の子ども食堂からは、事前活動時に子ども食堂の概要や目的をご説明いただき、学生達とのマッチングの機会を設けた。その機会は学生との交流となっただけでなく、他の団体の活動内容を共有いただく機会となった。現地活動では、やはり、年齢の近い学生達が、一緒に遊び、勉強を見るなどと子どもと関わることで、子ども達が喜ぶと好評をいただいている。

今年度はコロナの影響で、子どもと関わる時間があまり持てなかったが、2018年からの継続した活動となっており、大学(学生)参加への期待も大きくなっていると感じられる。